

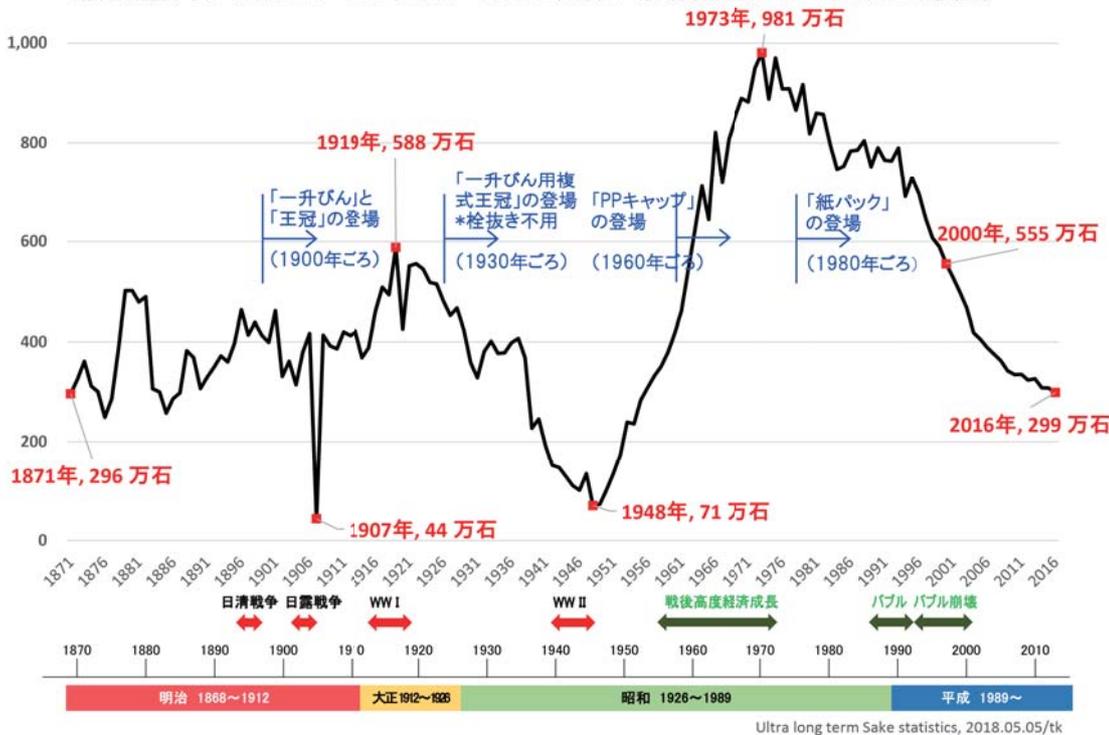
ちょっと意外な酒類の統計、あまり知られていない統計データを、ビジュアルな資料で紹介するコーナー。当社で蓄積しているデータを不定期連載でお届けします。

今回は、「超・長期の清酒製造量と醸造場数の推移」をご紹介します。

## 日本の清酒の製造量の150年の推移

Sake manufacturing history in Japan: Total production

清酒製造量、単位：万石(1871～1949年は実データ、1950年以降は「清酒課税数量(180L=1石で、KLを石換算)」

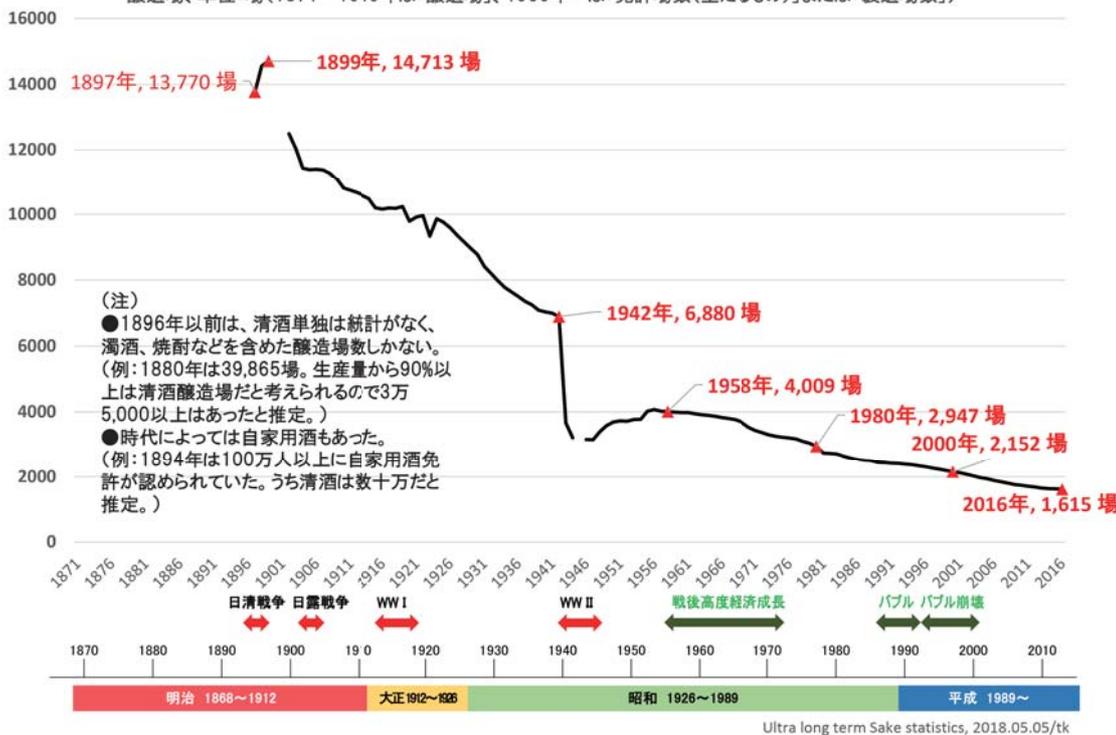


明治・大正・昭和初期のデータは「酒税関係史料集Ⅰ」「同Ⅱ」(国税庁税務大学校・税務情報センター・租税史料室編著、平成21年12月発行)によるもので、製造量の単位は「石」。戦後のデータは、国税庁のもので、「KL」を「石」に換算して表示したものです。醸造場数も同じ資料によります。

## 日本の清酒の醸造場数の150年の推移

Sake manufacturing history in Japan: Numbers of Sake manufacturers

醸造場、単位：場(1871～1949年は「醸造場」、1950年～は「免許場数(主たるもの)」または「製造場数」)



### 清酒の製造量の推移

→ 150年前とほぼ同水準

- まるで、地震計の振幅記録のよう。150年スパンで見ると、日露戦争と第二次世界大戦の二つの大きな谷があることがわかります。そして、現在、3つ目の谷に向かっていていることも読み取れます。創業以来150年以上の清酒蔵元がたくさんありますが、この荒波を超えてこられたことには敬意を表さざるを得ません。
- 清酒というくりではありますが戦前はすべて「純米酒」で、「アル添清酒」が誕生したのは戦中・戦後です。現在、アル添清酒は総生産量の75%くらいです。
- 青文字で、「一升びんと王冠」、「一升びん用複式王冠(栓抜き不用、リシール可能)」、「PPキャップ(同じく、栓抜き不用、リシール可能)」、「紙パック」の4つの登場時期を、「パッケージ」上のエポックとして記載しました。清酒生産量との関係を議論するのは難しいことですが、相当の関係はあることは事実でしょう。
- もちろん、穀田式搾り機・自動製麹機・ステンレスタンク・自動場詰め機など「醸造設備」の登場時期と清酒生産量の関係、また電気・鉄道・テレビ・コンビニ酒販免許解禁など「社会インフラ」の発展・変化と清酒生産量の関係も、議論すべきテーマでしょう。

### 清酒の醸造場数の推移

→ 150/120年前の1/10

- 一方、醸造場の数は、製造量のような上下の振幅はなく、ほぼ単調減少。(明治前半のデータがないので、120年ほどの推移)
- 直近の2016年の「1,615場」は、国税庁の、本稿執筆時点で最新データである平成28年度の清酒の「製造場数」(複数の酒類を製造している場合、清酒製造数量が最も多い)の数字ですが、「製造者数」では「1,701者」です。
- 一方、「平成28酒造年度における清酒の製造状況等について」という調査報告(同じく最新データ)では、平成28酒造年度において清酒を製造したのは「1,212場で前年度から29場減少」です。
- 実際に、ある程度アクティブに企業活動をされている清酒蔵元は、現在1,400社くらいではないでしょうか。



## アメリカ合衆国の醸造場数の150年の推移

Historical U.S. brewery count, 1873-2017 source: Brewer's Association statistics

(ほとんどがビール醸造所だが、特に初期のデータにはサケ醸造所も含まれると考えられる。ワイナリーは含まない。)



### (関連 1) アメリカの醸造場数の推移

→ 150年前の1.5倍 (!)

- 日本では清酒製造場の数は減る一方ですが、アメリカは事情が大きく異なり、「醸造場 (brewery) の数が、建国以来の最高水準になった」ことが話題になっています。ここでいう、ブルワリーとは主にビール醸造所を指します。(ワイン醸造所は含まれません。)
- 左のグラフはアメリカの Brewers Associations のサイトから取得したものです。偶々、清酒とほぼ同じ年代スケールです。2016年に建国来初めて5,000を超え、2017年には6,372となっています。大量生産集約化の流れは100年以上続き、1980年代には50程度まで減りましたが、1990年代以降のクラフトビールの台頭でこのような状況になっています。
- 余談ですが、アメリカでは、建国以来のすべての醸造所名と所在地を知ることが出来ます。1995年発行の「American Brewers II」という書籍には、合衆国建国前からアメリカに存在したすべての醸造所(日本人による戦前・戦後のサケ醸造所を含む!)の名前と場所が記載されています。単に社名と住所の羅列の書籍で、ネット時代前に民間から出版された本です。こんなものを出版してしまうアメリカに驚きを感じます。日本では、明治や大正の蔵元の名前を全国レベルで検索するなど至難でしょう。

## 紙パック入り清酒と一升罎入り清酒のトレンド 30年の推移

From "Sake Paper Pack in Japan: Trend, Statistics and Advantages" 1-27-2018 →  
A paper for CPP (Certified Packaging Professional of IOPP) by Yang Li (Global Business Coordinator | TricorBraun)



(ヤン・リー氏はアメリカのパッケージメーカーTricorBraun社の人。2014年に日本の福岡に来たとき、紙パックの清酒が大量に販売されているのを見て驚いたそう。中国でもアメリカでも酒類がこれほど大量に紙容器に入っている事例はないので、論文のテーマに選んだとのこと。)

### (関連 2) アメリカの論文に見る「清酒紙パック」

- このグラフは、アメリカの Yang Li さんという方が書いた「Sake Paper Pack in Japan: Trend, Statistics and Advantages」という2018年1月の論文から引用したものです。
- ヤン・リーさんは、アメリカのパッケージ会社 TricorBraun の人。2014年に日本の福岡に来たとき、紙パックの清酒が大量に販売されているのを見て驚いたそう。中国でもアメリカでも酒類がこれほど大量に紙容器に入っている事例はないので、パッケージに関する certificate 取得論文のテーマに選んだとのこと。当社のウェブサイト情報(清酒のパッケージ関連情報)を見て、恩師だった元九州大学教授を通じてコンタクトがあり、多少のやり取りをした縁で、ご本人の了解を得て掲載するものです。
- 清酒の減少と紙パックの増加に因果関係があるかは議論があるところですが、グラフ上は見事な逆相関を示しています。論文の中ではコンビニエンスストアの増加と紙パックの相関を取り上げています。
- 紙パック比率は2010年ごろがピークで55%、現在はやや減少して51%です。(text = t. kita)

## きた産業のTOPICS!

### 「奈良工場のリノベーション、ほぼ完成」

- 3年越しで進めていた、奈良工場全4棟のリノベーションがほぼ完成しました。ご覧のように「建物正面ガラス貼り」のちょっとしたデザインで4棟とも統一。



- きた産業のキャップ工場とPETボトル工場、ルーツ機械研究所があります。
- 奈良市の南の端、奈良駅から車で15分ほどの場所です。「清酒発祥之地」の石碑\*がある菩提山・正暦寺もすぐ近く。奈良にお越しの節はぜひお立ち寄りください。

\*当社ウェブサイト「神社仏閣とお酒」に掲載  
www.kitasangyo.com/pdf/archive/sake-info/Sake&Shrine.pdf